

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	東成区
学校名	大阪市立今里小学校
学校長名	松永かおり

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・今里小学校では、第6学年 22名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

教科	平均正答率(%)		
	今里小学校	大阪府(公立)	全国(公立)
国語	73	65	67
算数	63	58	58
理科	57	55	57

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】 「書く内容の中心を明確にし内容のまとまりで段落をつくり、段落相互の関係に注意したりして文章の構成を考えることができる」とや「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる」とについて正答率が非常に高かったのは、日ごろから相手がわかるように説明する文章を書くことを繰り返し行っていることによると考えられる。

【算数】 「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見いだし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみること」についても、正答率が高く、国語と同様、日ごろの学習の積み重ねによる成果と考えられる。

【理科】 「水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現すること」も、根拠から考えられる理由を的確に表現する力がついており、前述の国語・算数と同様にこれまでの学習の積み重ねが正答率にの高さに結びついていると考えられる。

質問調査より

- ・生活習慣については「朝食を毎日食べている」児童は100%、「規則正しい睡眠・起床」ができる児童も9割を超えており、基本的な生活習慣は概ね定着している。
- ・「自分には良いところがある」「友だち関係に満足している」「いじめはいけないと思う」「将来の夢や目標を持っている」などの項目はすべて100%であり、児童が安心して学校生活を送り、将来に希望を持って前向きに学んでいることがわかった。
- ・ICT機器を活用した学習についても、情報の収集・整理・表現ができると実感する児童が多く、学習理解の深化や表現力の向上につながっていることが確認できた。さらに、授業で学んだことを振り返り、生活や次の学びに結び付ける力も高く、主体的な学びが定着していると考えられる。

今後の取組(アクションプラン)

児童質問紙では「自分には良いところがある」「友だち関係に満足している」「いじめはいけないと思う」「将来の夢や目標を持っている」などの項目はすべて100%であり、児童が安心して学校生活を送り、将来に希望を持って前向きに学んでいることがわかった。また、ICT機器を活用した学習についても、情報の収集・整理・表現ができると実感する児童が多く、学習理解の深化や表現力の向上につながっていることが確認できた。さらに、授業で学んだことを振り返り、生活や次の学びに結び付ける力も高く、主体的な学びが定着していると考えされることより、今後も現在の取り組みを継続し、学力向上につなげていく。